

# サマープログラムを起点としたイノベーション教育の拡大事例

谷田貝 孝 (宮崎大学)  
木場 康典 (宮崎大宮高等学校)  
根本 紘志 (i.school)



## 要旨：イノベーション教育を支えるエコシステム

イノベーション教育の取り組みが継続的に進められるためには学校・産業・行政の持続的な連携のあり方が不可欠である。宮崎県で行われている高校を中心としたイノベーション人材教育実践を支える体制の推移を事例に、イノベーション教育と地域の関わり方を探る。

## 事例：TISP

2016年より毎夏、宮崎県内の高校で行われているイノベーション教育のサマープログラム。宮崎大宮高校のスーパー・グローバル・ハイスクール事業を基盤として、宮崎大宮高校及び県下複数の高校、i.schoolが運営し、フィールドワークで地元企業にご協力いただいている。

## プログラムの概要

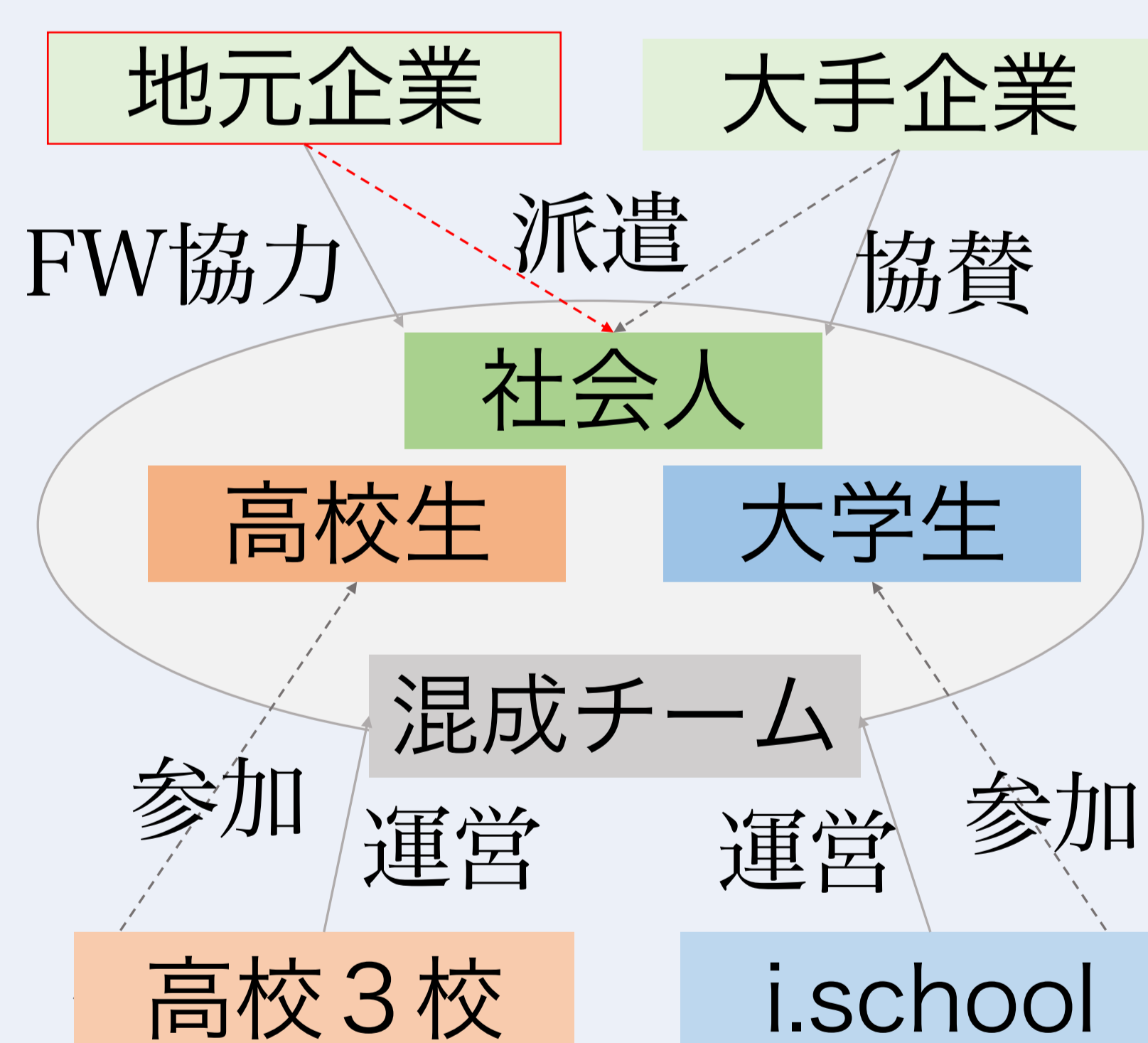
毎年8月2週目に、大学生・院生が宮崎県に滞在、高校生とフィールドワーク・アイデア発想ワークショップを行い、作成したアイデアを発表する。

日程	Day1-2	地元企業でのフィールドワーク
	Day3-4	アイデア発想ワークショップ
	Day5	最終発表
テーマ	2016-18	ストーリーが埋め込まれた製品・サービス
	2019	未来社会における地方中小企業の新規事業

## 2019年

ワークショップのテーマ変更に合わせて、フィールドワーク先を一定以上の規模を持つ中堅企業に変更した。日向・都城エリアの企業にも協力を依頼した。

FW先企業若手社員の方にDay3-4にご参加いただき、プログラムに一部参加いただくとともに体験ワークショップを実施した。



## 考察：エコシステムの広がり

- プログラム骨格を固めながら支援体制を拡大
- 協力企業の規模、人材育成ニーズとの一致
- 「県内」でなく「市内」の高校を応援
- ただし、エコシステムは限定的 (味方になりそうなところとは結びついた)

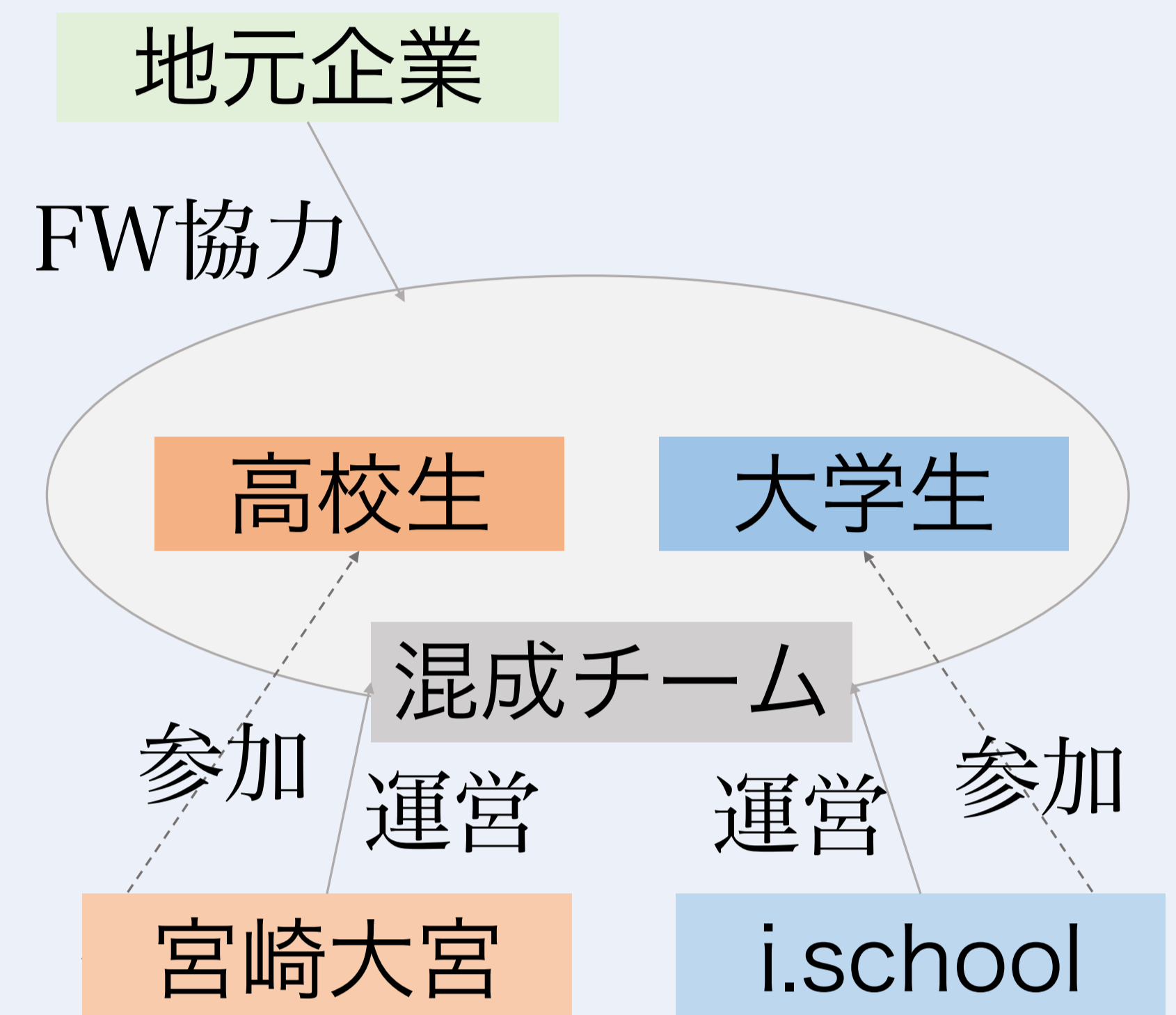
謝辞：TISPの運営にあたっては取り上げてくださった方々以外にも多大なるご支援をいただいている。また、本報告に当たっては宮崎大学の援助を受けた。記して御礼申し上げます。

## 変遷：プログラム関係機関の変遷

本プログラムが始まった2016年より、プログラムの関係者は年々変化してきた。

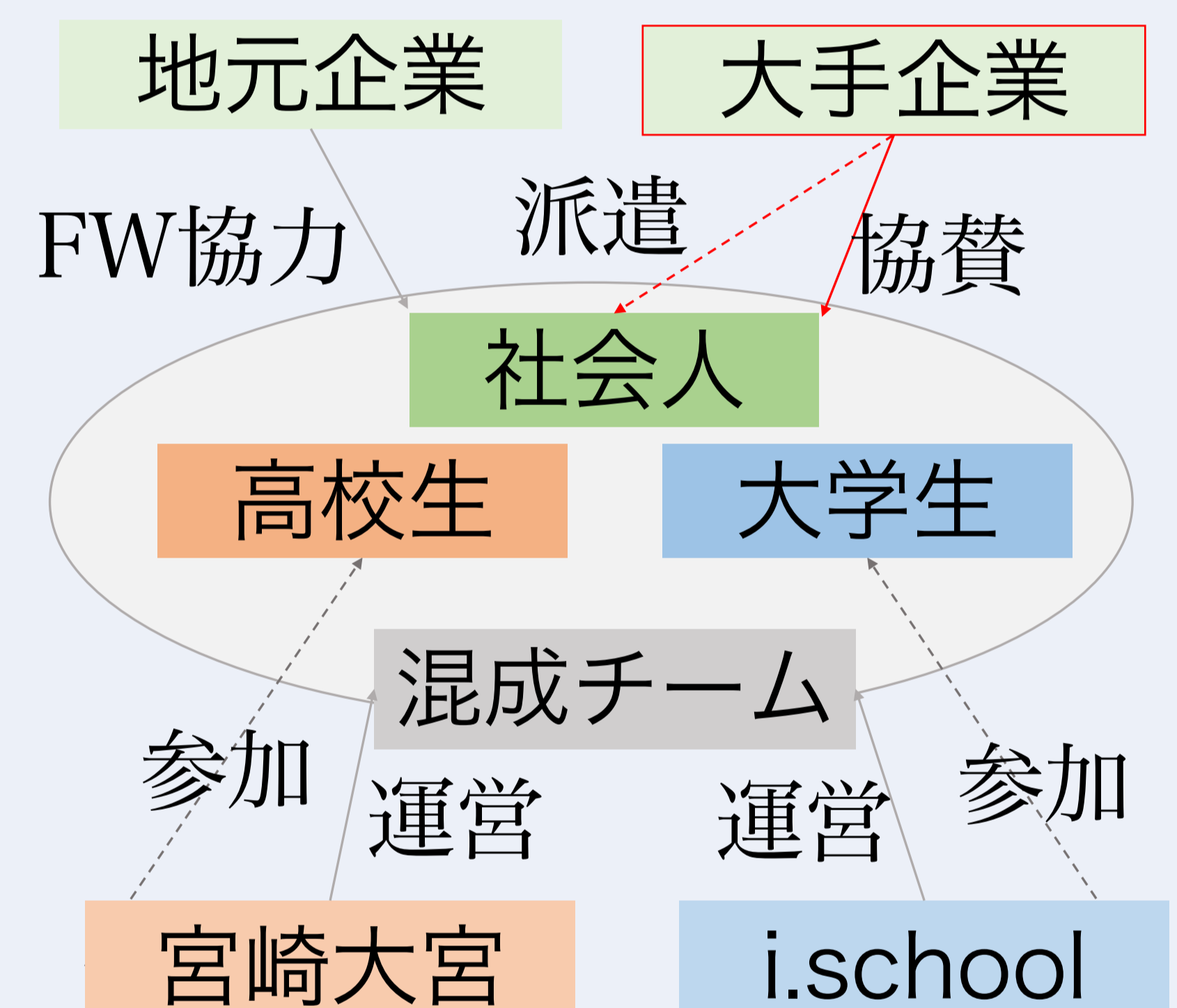
## 2016年

宮崎大宮高校の関係先、運営関係者の個人的な繋がりで協力を依頼した。フィールドワーク先として、伝統を持つ宮崎県下の中小企業にご協力いただいた。



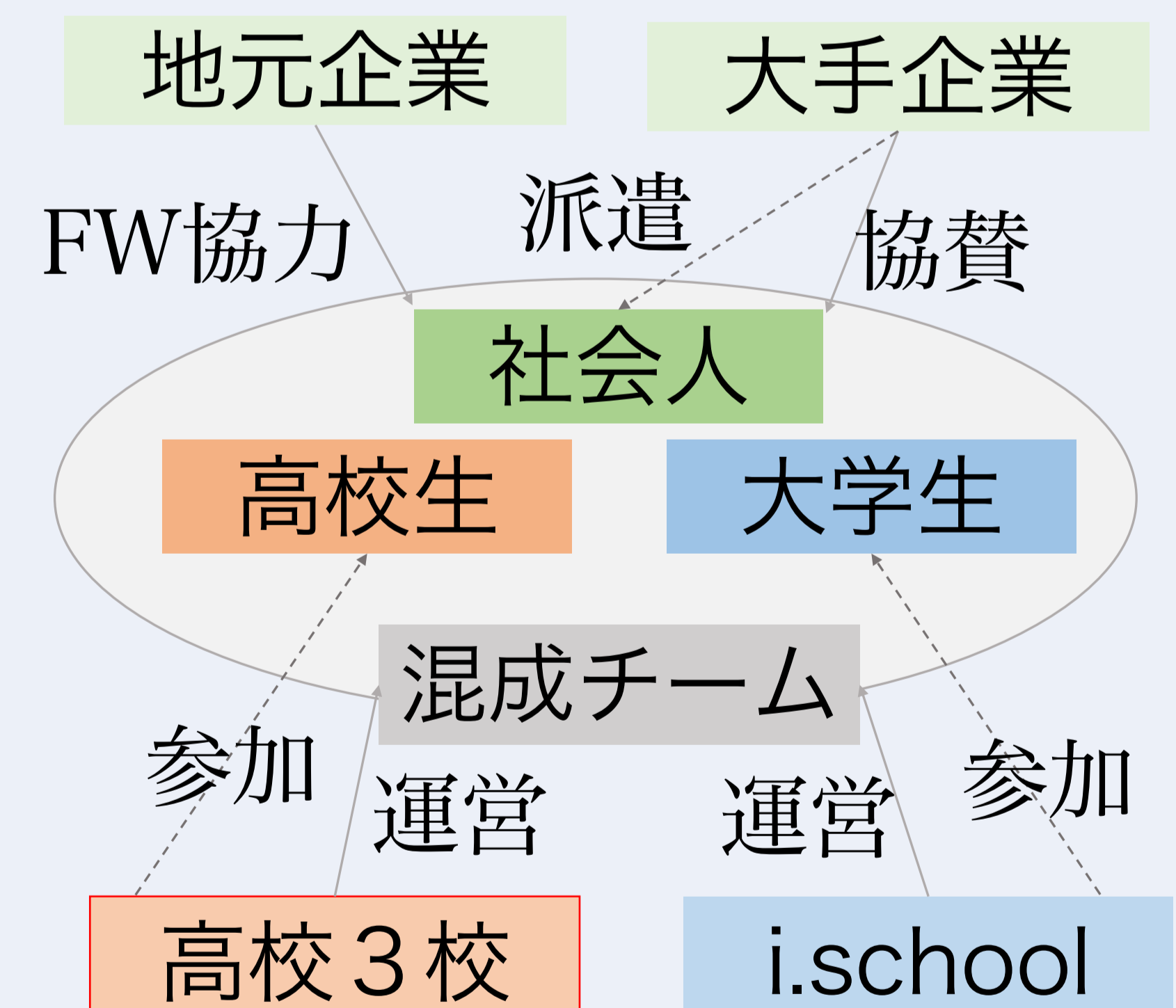
## 2017年

プログラム全体に対して大手企業よりご協賛をいただき、協賛企業の一部の社員の方がプログラムに参加した。初年次の反省を踏まえ、プログラムを微修正した。



## 2018年

宮崎大宮高校に加え、日向高校と都城泉ヶ丘高校が参加し、3校体制となった。2016-17年の経験を踏まえプログラムの骨子を固めた。



## 展望：支援の広がりに向けて

組織間  
対話・学習  
↓  
組織環境間  
対話・学習

